

アニメがほんとに科学技術を推進するか

3月7日に武藤先生の講義を受講した。機械工学の学生としての私の視野はきっと局限があると思うが、ただ自分の感想をちょっと言い出したいと思う。

武藤先生の講義はすばらしかった。スライドの各ページがポスターみたい。それに加えて、武藤先生ははっきりと日本のアニメ産業と攻殻機動隊というアニメが科学技術に対しての推進を紹介してくれた。日本の知的財産の重視さを実感した。そして、攻殻機動隊というすばらしいアニメを知っていた。大変勉強になった。特に、攻殻機動隊を中心として、各研究室がアニメのシーンをリアルするために努力して、すばらしい作品を作る気持ちには感動された。

コンクールを行って、アニメの空想な技術を実現して、この世界をよりよくするのは見た目はエキサイティングなことだけど、実際には推進作用がわずかあると思う。

まず、今までの科学は限界がある。人間の想像力と発想力を否定わけではないけど、ただ、今までの物理の定理やものづくりのときの公式には限界があると思う。たとえば、ロボットを作るにはデバイスが必要だけど、ドライバーとしてのソフトウェアもかかせない。ロボットを駆動するには先にコードを入力しなければいけない。それに比べて、人間が記憶や本能を駆動力として行動する。行動すればするほど、経験を積めて、うまくなる。当然、プログラムよりロボットが経験をつませることができるけど、デバイス・ソフトウェアのロボットと血肉・脳の人間は本質的には違いがある。SF小説が1930年代生まれて、ロボットが人間の地位を脅威の心配はずっと実現していない原因が多分それがひとつだと思っている。

次、今の社会は商業の社会、会社は新しい技術を開発できれば、お金をもっと稼がれて、技術には落伍の会社は倒産する恐れもある。利益を求めるために、技術をどんどん更新したり、新しい領域も発見したりしている。利益の駆動力はあるコンクールより大きいと思うので、アニメは科学技術への貢献は比較的にはわずかある。その一方、大手会社には優れている人材が集まって、いい研究環境もあるので、ただアマチュアとしての研究はそれを比べることができないと思っている。

最後、攻殻機動隊を主題としてのコンクールの主催の方がアニメに詳しいけど、技術にはあんまり詳しくないと思う。武藤先生が講義のとき、「玩具が最先端の技術の担体にもなれる」という観点を述べるとき、「車走行するとき振動よりのエネルギーを収集して、乾電池もいらぬミニ四駆」を提出した。個人の観点から、この発想が実現できない。振動が発生すれば、エネルギーが必ず流失する。エネルギーが減少すると、走行の状態が保てないと思う。

以上の三つの原因で、アニメが科学技術を推進することがわずかあると思っている。